

題材名 音楽の対話をしよう ～ブルースの音階やリズムを使った音楽づくり～

東広島市立寺西小学校
教諭 富樫 真紀

1 題材構想

題材の目標

○ブルースの音階やリズムが醸し出す雰囲気を感じ取り、楽曲の構造を理解して聴いたり、問いと答えなどを生かし、即興的に旋律をつくったりする。

【A表現（3）音楽づくり ア, B鑑賞 イ, [共通事項] リズム, 旋律（音階）, 問いと答え】

題材について

○ 本題材は、「A表現」（3）ア「いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。」及び「B鑑賞」イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。」を扱うものである。

ブルースは、音階（ブルー・ノート）や12小節単位のコード進行、跳ねるようなリズム（シャッフル）などに特徴がある。これらのブルースに用いられる音階やリズムが醸し出す雰囲気を感じ取り、楽曲の構造を理解して聴く聴力の育成や、ブルースの音階を用いて、問いと答えなどで友だちと音で「対話」し、即興的に表現する能力を育成することをねらいとしている。

教材曲『Cジャム・ブルース』は、本来ジャズに分類される楽曲だが、楽曲名に「ブルース」と付けられているとおり、音階やリズムなどにブルースと共通点が多くみられる。また、テナーサックスとトランペットが掛け合いをしており、問いと答えをとらえやすい。なお、この楽曲は歌を含まない器楽のみの演奏なので、本題材における楽器を用いた音楽づくりについて、児童にイメージをもたせやすいと考える。

○ 本題材の活用型学習における基礎的・基本的な知識・技能は、ブルースに用いられる音階やリズム、及びそれらを表す諸記号、ブルースに用いられる音階の構成音の選び方などである。これらを活用して、ブルースの特徴を生かした「対話」となるように思考、表現させる。

子どもの姿

○ 本学級の児童は、第4学年時に、リズムを選んでつないだり、重ね方を工夫したりするリズムアンサンブルの学習を行った。また、第5学年時に、「静かにねむれ」の音楽の仕組みを生かして、旋律の続きをつくる学習を行っている。リズムアンサンブルではリズムの重ね方を、旋律づくりでは、旋律のつながる感じや終わる感じなど、旋律の音の動きを意識して音楽づくりをしていた。

しかし、即興的に音楽をつくる学習では、その場で音を直観的に判断したりして表現することに課題があり、あらかじめ楽譜などに示されていないと表現することが難しいという実態がある。

指導に当たって

○ 指導に当たっては、まず『Cジャム・ブルース』を聴き、ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムを聴き取り、それらが醸し出すよさや面白さを感じ取れるようにする。また、ブルースのリズムの特徴を「リズムの技」として提示し、1音でリズム模倣させる。この「リズムの技」を使いながら1音や2音で自由に音を選ぶ旋律づくりと、段階を踏みながら自由な即興的な表現を楽しんでいけるようにする。さらに、即興演奏に慣れてきたら、二人組で「問いと答え」になるような表現へとつなげていく。具体的には、「問い」に対して、同じように「答え」（模倣）たり、違う旋律やリズムで「答え」（対照）たりするなど、対話しながら音楽をつくる活動に取り組めるように工夫する。

なお、即興的に表現する際、ブルースに用いられる旋律（音階）の構成音について鍵盤にシールを貼ることで、音を選ぶ時に無理なく取り組めるように工夫する。

○ 活用型学習において、ブルースの特徴である音階やリズムを使って、問いと答えを意識した12小節の音楽づくりを行う。最初の8小節は自分たちがどのような音楽の対話をしたいか見通しを持たせるために、メモをつくって演奏をさせる。メモには、リズムと使いたい音を簡単に書いておき、そのメモをもとに即興演奏をする。最後の4小節では、自分の得意なリズムを使って自由に即興演奏することで、音楽の対話を楽しみながら表現できるようにする。

2 題材の指導計画と評価規準

第4学年 「リズムアンサンブル」

第5学年 「まとまりのある私の旋律をつくろう」

観 点	評 価 規 準
音楽への 関心・意欲・態度	○ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムを使った音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。
音楽表現の 創意工夫	○ブルースの旋律（音階）やリズム、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、いろいろな音楽表現を生かし、どのように音楽をつくるかについて発想をもっている。
音楽表現の 技能	○ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムを使った音楽表現から得た発想を生かして、即興的に表現している。
鑑賞の能力	○『Cジャム・ブルース』の旋律（音階）やリズムを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。

【学習の流れと評価計画（全3時間）】

時	○学習内容 ・ 学習活動	◎評価規準
1	○『Cジャム・ブルース』を聴き、ブルースに用いられる旋律やリズムが醸し出すよさや面白さを感じ取る。 ・『Cジャム・ブルース』の前半を聴き、ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムを使った音楽の雰囲気を感じ取る。 ・ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムの特徴を知る。 ○教師2人による即興演奏を聴き、対話をするような即興演奏の面白さを感じ取る。 ○ブルースの「リズムの技」を知り、ブルースの音階から音を選んで即興的に旋律をつくる。 ・「リズムの技」を使って、鍵盤ハーモニカで即興的に旋律をつくる。 ・ブルースの伴奏に合わせてリレーで演奏する。	◎ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムを使った音楽表現に興味・関心をもち、即興的に表現する学習に主体的に取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】
2	○『Cジャム・ブルース』を聴き、ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムが醸し出すよさや面白さを感じ取る。 ・『Cジャム・ブルース』の後半を聴き、トランペットとテナーサックスによる「問いと答え」の表現を感じ取る。 ○ブルースの「リズムの技」や「演奏の技」を使って、友だちと即興的に問いと答えの表現をつくる。 ・ブルースに用いられる旋律（音階）で教師の即興演奏を模倣したり、異なる旋律やリズムで答えたりする。 ○問いと答えになっている表現について考える。 ・どのような工夫をすれば音楽の対話らしくなるか、他の児童の表現から見付けられるようにする。 ・問いと答えになるように意識しながら二人で即興的な表現をする。	◎『Cジャム・ブルース』の旋律（音階）やリズム、問いと答えを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。【鑑賞】
3	○ブルースの旋律（音階）やリズムを使って、問いと答えになるように演奏を工夫する。 ・二人でどんな問いと答えの音楽にしたいか考え、演奏のメモをつくる。 ○問いと答えを感じ取り、即興的な表現をリレーで演奏する。 ・他の児童の演奏のよかったところを見付ける。（本時）	◎ブルースに用いられる旋律（音階）やリズムを使った音楽表現から得た発想を生かして、即興的に表現している。【技】

中学校第1学年 「日本語の抑揚を生かした旋律をつくろう」

3 本時における思考力・表現力と活用させる基礎的・基本的な知識・技能

【本時における思考力・表現力】

- ブルースに用いられる音階やリズムについての音楽的な感受を基に、どのように「対話」をして音楽表現をするかについて、考えながらいろいろ試す(思考力)
- 「このように音楽をつくったらよい」といった自分の考えを言葉などで表す(表現力)

【活用させる基礎的・基本的な知識・技能(既習事項)】

【内容及び方法】

- ブルースに用いられる音階やリズム, 及びそれらを表す諸記号(知識)
- ブルースに用いられる音階の構成音やリズムの選び方(技能)
- 簡単な旋律やリズムを使った, 問いと答えによる即興的な表現の仕方(技能)

4 本時における手立て

【指示・発問の工夫】

- ①「山びこ」や「かくれんぼ」を生かして対話になるように演奏のメモをつくって練習しましょう。
- ②今の演奏で、「いいな」「素敵だな」と思ったことを教えてください。
- ③音楽で会話しているように聴こえましたか。

【教材の工夫】

- ①音階, 鍵盤図などを提示し, 学習したことを振り返られるようにする。
- ②ブルースに用いられる音階の構成音にシールをつけておくことで, 音を選ぶ時に無理なく即興的に表現できるようにする。
- ③問いと答えになる表現について, 前時に話し合ったことを掲示しておく。

【学習形態の工夫】

- ①二人で音楽の対話となるように音やリズムの選び方を考え, 演奏する。
- ②児童の演奏のよさを全体交流する。

5 本時の展開

【本時の目標】

- ブルースに用いられる音階やリズムを使った音楽表現から得た発想を生かして, 即興的に表現することができる。

【判断基準】(観察, ワークシート)

A	○ブルースに用いられる音階の構成音やリズムについて, 直観的に判断したり選択したりするとともに, 旋律の音色や強弱の変化などとかかわらせながら音楽をつくることができる。(観察) ○問いと答え(「やまびこ」(模倣)や「かくれんぼ」(対照))の特徴とワークシートの記述において, 整合性がみられる。(観察, ワークシート)
B	○ブルースに用いられる音階の構成音やリズムについて, 直観的に判断したり選択したりして, 音楽をつくることができる。(観察) ○問いと答え(「やまびこ」(模倣)や「かくれんぼ」(対照))の特徴とワークシートの記述において, 関連がみられる。(観察, ワークシート)

【準備物】 鍵盤図, ブルースの音階・リズムの掲示, 楽器, CD, ワークシート

【本時について】

	主な学習活動と児童の反応	教師のはたらきかけ ◎評価規準【評価方法】
つかむ	1 ブルースの音階とリズムを使って、即興的な問いと答えの表現を楽しむ。 ・教師の演奏を模倣したり（「山びこ」タイプ）、異なるリズムや旋律で答えたり（「かくれんぼ」タイプ）する。	①音階、鍵盤図などを提示し、学習したことを振り返られるようにする。 ②ブルースの音階の音にシールを付けておくことで、技能面で抵抗感をもつことなく即興的に演奏できるようにする。
	2 本時の課題を確認する。 ブルースで対話しながら音楽をつくろう	
深める	3 音楽の対話のためのメモをつくり、演奏の練習をする。 ・「山びこ」タイプと「かくれんぼ」タイプを確認し、自分たちがどのような対話をしたいかメモをつくる。 ・使いたいリズムの技や音を選び、対話になるように練習する。 ・自由な演奏の部分では、自分の得意な技を選んで演奏する。	発1 「山びこ」や「かくれんぼ」を生かして対話になるように演奏のメモをつくって練習しましょう。 ③問いと答えになるような演奏について、前時に話し合ったことを掲示しておく。 ④二人で音楽の対話となるように音やリズムの選び方を考え、演奏する。
	4 即興演奏を発表し、表現のよさを見付ける。 「演奏の技」から ・いろいろな音をたくさん使っている ・リズムを組み合わせている ・和音を使っている 「対話の技」から ・全く同じ音とリズムで演奏している ・少し違う山びこが面白い ・問いより盛り上がる答えになっていた ・それぞれが全く違うリズムや音で自由に演奏していたのがすごい	発2 「今の演奏で、『いいな』『素敵だな』と思ったことを教えてください。」 発3 音楽で対話しているように聴こえましたか。 ⑤児童の演奏のよさを全体交流する。 ◎ブルースに用いられる音階やリズムを使った音楽表現から得た発想を生かして、即興的に表現しているか。 【観察、ワークシート】
まとめる	5 これまでの学習で、分かったことや楽しかったこと、工夫したことを振り返る。 ・自分ができたことや学んだことを個人で振り返る。	○本時の学習で即興的に表現したり、他の児童の演奏を聴いたりして分かったことや楽しかったことをワークシートに記入して振り返る。

6 板書計画

めあて ブルースで対話しながら音楽をつくろう

対話（問いと答え）の技

山びこ

- ・全く同じ
- ・リズムは同じだけど音が違う

音楽の対話メモ

A	B
A	B
A	B

かくれんぼ

- ・お互い自由
- ・問いかけより盛り上がる
- ・問いかけより静かになる

リズムの技

タッカタッカ	タタタタタタ
タンスター	ジャラーン
パオーン	タラーン

演奏の技

- ・リズムを組み合わせる
- ・いろいろな音を使う
- ・和音で演奏する